

大杉谷国有林からの手紙

4通目 ～大杉谷国有林について(2)～

3通目の最後でお話した大杉谷国有林における大きな問題、それは、シカによる森林への影響です。

昭和30年代伊勢湾台風、室戸台風など大型台風の影響により、大杉谷国有林の山上部分にあたる大台ヶ原で、大規模な風倒木災害が起こり、森林に大きな空間ができ、そこにミヤコザサが大量に分布したことで、ニホンシカ（以下、シカ）の餌量が増加し、昔に比べ猟師さんが少ないことやオオカミなどの天敵がいないこともあいまって、この地域のシカが急激に増加しました。



シカの増加は、被害を免れ残された周辺の森林に影響をおよぼすことに、樹木の剥皮、稚樹などを食べられることによる植生の衰退、健全な森林更新の阻害等の問題を引き起こしながら、森林環境全体をさらに悪化させることにつながってしまいました。

この大台ヶ原での変化は、シカの行動範囲の拡大により、徐々に大杉谷国有林全体にひろがり、長年、大事に育てていたスギ、ヒノキなどの植栽木だけでなく、天然林と

して保全していた地域の貴重なトウヒやツガなどの樹木、コケ類の消失など様々な影響が目立つようになりました。

さらにこのような森林環境の変化は、急峻な地形で、激しい雨の影響を受ける大杉谷国有林内での土壌の流失につながり、崩壊現象が生じている箇所さえ見られるようになっているのです。

三重署では、植栽した箇所に食害を受けないよう防護ネットを張る等の対策を行ってきましたが、問題をすべて解決するまでには至りませんでした。



そこで林野庁は、「大杉谷国有林の貴重な生態系を保全し、豊かな森林をとり戻すため」、あらためて、シカによる森林被害の対策の検討を目的とした実態調査を行い、その結果をもとに、シカの生息動向やシカによる森林への影響等を取りまとめ、「1. 森林の成立基盤の保全、2. 森林後退の拡大の抑制、3. 天然林の更新環境の回復、4. シカの個体数管理」を4本の柱とした「大杉谷国有林におけるニホンシカによる森林被害対策指針」を平成24年度に定め、様々な取組を実施しています。

今回は、その取組のいくつかを紹介させていただきます。

(1) ボランティア参加の樹木保護作業

大台ヶ原でトウヒなどの樹皮剥ぎを防ぐため、公募で集まっていたボランティアの皆さんと一しょにサブリガードを樹木に巻く作業を実施しています。なお、昨年度からは、作業だけでなく、大杉谷のことを知ってもらえるような学習会もあわせて実施しました。



(2) 植生保護柵による稚樹の保護

大台ヶ原周辺で、芽吹いた貴重な稚樹を守るため、小さなパッチ状のネットを設置して集中的に保護しています。

(3) シカの生息状況調査

シカに取り付けGPSや林内で見つけられる糞の密度からその行動、生育状況を調査しています。



(4) 未立木地への植栽事業

食害などにより樹木がなくなった場所へ、土壌の流失を抑えるための工法を取り入れた植付を実施しています。

(5) 定期的な委員会の開催による検討

行政関係者だけでなく、専門の学識者や地元関係者を含めた委員会を毎年定期的で開催し、事業の検証や今後の取組の検討を行っています。

このほかにも、シカの捕獲に関する事業や環境省をはじめ様々な団体が行っている取組との情報共有などいろいろなことに取り組んでいますが、その内容はまた別の機会に紹介させていただきます。

なお、今年度も9月に、大台ヶ原で保護活動を計画しています、ぜひご参加ください（詳細につきましては、三重森林管理署のホームページで）。

発行：三重森林管理署 尾鷲森林事務所 地域統括森林官)